

30分で話す「新しい中世」

● 「新しい中世」ってなに？

21世紀の世界システムへの時代認識です。

● どんな時代認識？

かつての時代と「似ている」という時代認識。相互依存が進展し
グローバリゼーションがある種の段階に到達した時の国際関係を示す。

☆ 相互依存

システムのある部分の状態が他の部分の状態に関係している、
ある部分が代われば他の部分も変わるという意味

現在のシステムは冷戦や覇権の後の時代に入っただけではなく、
相互依存の進展は「新しい中世」の特徴を示し始めている。

● なんで「中世」なの？

☆ 比較の対象としてイメージしている中世

16世紀ごろから「近代世界システム」と後に呼ぶことがふさわしい

世界システムが西欧に誕生する前に、そこに存在した別のタイプの世界システム
ヨーロッパ中世の世界システムの特徴

イ 主体の多様性

ロ 関係の複雑性

ハ 大まかなイデオロギーとの一致

主体の帰属意識は複雑。戦争の公私をつけることが困難であった。

● すべての地域が「新しい中世」を示しているの？

第一圏域 (新中世圏)

自由主義的民主主義 市場経済が定着、成熟

企業活動が圏域内部ではきわめて国際的 市民社会の役割も上昇

第二圏域 (近代の特徴を残す)

民主主義も市場経済も不安定 国家間戦争は可能

第三圏域 (混沌圏)

近代が達成したものさえ失われようとしている 根本的秩序が崩壊してしまった部分
恒常的内戦と飢饉

● 旅行と NEWS に見る「新しい中世」の分析

☆ ネパール

ゼネスト 皇族暗殺 毛派 対 議会 対 国王

☆ ボリビアとアメリカ

麻薬と国際協力

☆ エチオピア

世界一貧しい国 宗教

【参考文献】

田中明彦『新しい中世』日経ビジネス人文庫 2003年

